

---

# 時の流れの中で僕らは

ペプチドアットアルファ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

時の流れの中で僕は

### 【Nコード】

N9206Y

### 【作者名】

ペプチドアットアルファ

### 【あらすじ】

世の中には奇妙な体験、変わった体験をした人たちがいます。本人達は自覚していないかもしれませんがそれは、時を動かすエネルギーなのです。

通り魔殺人 前編（前書き）

読みやすさ重視。

## 通り魔殺人 前編

僕は33歳独身の極普通の公務員。高梨浩二。高校で数学を一年生に今は教えている。

1-5組を受け持つており、バドミントン部の顧問もしている。同じ事の繰り返しのような日々を送っていたが、僕はそれで満足していた。

しかし、平凡な毎日を邪魔する現象が最近相次いでいる。それは通り魔殺人である。

高校付近に通り魔殺人が頻繁に起きていて、その被害者の全員が私の高校の生徒なのである。

それも一年生ばかり。殺された被害者の腹部は毎回ナイフで切り落とされているらしい。

私のクラスの生徒も二人犠牲になっていて、最近は特に大変である。

「あれ？高梨先生、もうあがるんですか？」

そう声をかけてきたのは、国語担当の伊藤先生。

「はい、テストの採点も終わったので。お先に失礼します」  
そういつて軽く会釈した。

「お先に失礼します。」

今度は職員室にいる先生方に聞こえるように僕は挨拶した。

「お疲れえ〜」

何人かの先生が返事をしてくれた。

今は定期テストの採点中での先生も忙しそうにしている。

学校の門をくぐると、部活帰りの生徒が何人が帰路に就いている。

「高梨先生、さよなら〜」

「浩二、なんかおこつてよお」

真面目に挨拶してくれてる子もいれば、だるい絡みをしてくる奴も

いる。

正直どっちもめんどくさい。だから、適当に返事をしてやり過ごす。電車に乗るとサラリーマンやOL、高校生など様々な人が自宅へ向かっている。

疲れた表情の社会人を見ると、教師という仕事を選んで正解だったか考えてしまう。

相当な事をしなければ職を失わない公務員とは違い、サラリーマンは能力が乏しかったり人間関係が上手くいかなかったりすると、職を失う可能性がある。

しかし、教師も中々大変である。相手はすぐ調子乗っちゃう生意気な高校生達。

文句を言うわ、人が話していてもぺちゃくちゃ話すわ、やるなと言った事をやるわ毎日が大変である。

そんな葛藤が頭を蔓延っているうちに降りる駅に着いていた。

自宅は駅から徒歩三分の2DKアパートだ。

神奈川の結構都会の方で、駅近だが家賃は結構安い。まあその分、アパートは見た目も中もぼろぼろだが。

今日の晩飯はステーキだ。私は朝飯と晩飯は自炊している。

ご飯を炊いている間に、フライパンで肉を味付けしながら焼いていく。肉はレアで食べるのが好きだ。

皿に肉を乗せて、その周りに野菜をトッピング。

テレビを付けず音楽も聴かず、静かな部屋でもくもくとステーキを食べていると今日生徒に言われたひどい一言を思い出してしまった。

「わかんねえよ。教えんの下手糞だなあ・・・」

自分の理解力の無さを教師である私のせいにして・・・。  
全く持って腹が立つ。

しかし、ステーキを食べていると腹の虫が収まってきた。

イライラしてないうちに、歯を磨いて寝るとしよう。

―翌日―

朝の職員会議で校長から、私の受け持つ1・5の生徒が昨日学校近くで刺殺されたという報告を受けた。

私のクラスの生徒が刺殺されたのは、これで三人目だ・・・。

犯人はまだ捕まっておらず、高校付近の地域に最近出没する通り魔の仕業だと警察は言っているらしい。

なお、私のクラスの3人や一年生を刺した犯人は同一人物であるという報告も同時に受けた。

刃の形状が同じだったらしい。そして今回も、腹部がナイフで切り取られていたらしい。

校長は最後に生徒に注意を呼びかけておけと言って職員会議は終わった。

何人も刺殺されているのに、休校にしないだなんて冷静な校長だと私は思った。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9206y/>

---

時の流れの中で僕らは

2011年11月27日16時53分発行